

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	第 8 号
受 理 年 月 日	令和 7 年 1 1 月 1 4 日
件 名	桐生市立商業高等学校の教育環境改善に関する陳情
陳情者 の 住 所 及 び 氏 名	桐生市 桐生市立商業高等学校保護者・生徒・関係者一同
陳情 の 要 旨	<p>拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げる。</p> <p>私たちは、桐生市立商業高等学校の保護者・生徒・関係者として、本校の教育環境に関する深刻な課題を看過できないとの強い思いから、本書を提出する。</p> <p>近年、群馬県内の県立高等学校等や他市の市立高等学校等（以下、「公立高等学校等」と記載）においては、施設設備の改善が着実に進められている。しかしながら、本校においてはその整備が遅れ、他校との格差が拡大している状況にある。</p> <p>今こそ、桐生市のご英断により、子どもたちの命と未来を守るための抜本的な対策を講じられたく、ここに強く要望する。</p> <p>＜要望事項＞</p> <p>① 体育館等への空調設備（エアコン）の設置</p> <ul style="list-style-type: none">群馬県は、今夏の記録的な猛暑（県内最高気温41.8度・国内観測史上最高）を受け、県有施設へのエアコン整備を前倒しで進めるための経費を盛り込んだ9月補正予算案を発表した。令和6年度からすべての県立高等学校等の体育館にエアコン整備を進めており、今年度は17校で工事を予定していたところに5校を追加し、来夏までに設置完了予定とされている。近隣の市立学校で言えば、太田市立太田高等学校、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校、前橋市立前橋高等学校にもすでに設置済みである。桐生工業高等学校も今秋設置予定であることから、桐生市内の公立高等学校の中で唯一本校には体育館にエアコンが未設置であり、本校のみが取り残された状態となっている。私立高等学校の無償化により、公立離れが全国的に進んでいる。さらには上記の理由により、他の公立高等学校等との差が施設面でも広がっており、志願者数に影響が出ることを懸念している。体育館を使用するバスケットボール部・バレー部・バドミントン部など、全国大会出場実績のある部活動においても、ライバル校との施設設備の差を理由に、生徒募集への影響が懸念される。 <p>・令和7年8月5日、伊勢崎市で国内観測史上最高の41.8度を記録した同</p>

日、桐生市でも41.2度を観測した。このような極端な環境下においても、バドミントン部では競技特性上、シャトルが風の影響を受けるため窓を閉め切って練習を行わざるを得ない。現在は、エアコンの効いた教室を冷却スペースとして利用し、短時間の練習と教室へ移動しての休憩を繰り返すという非常に厳しい状況にある。

・バドミントン部の生徒からは「競技の特性上、扇風機の使用も窓の開放もできない体育館での練習は身体的に過酷で、短く区切った練習では思うような練習ができない」との訴えがある。

・令和7年7月1日～8月15日までの46日間の体育館2階ステージの気温を計測したが、暑さ指数（*W B G T）が「28」を超えている日数が、記録できた40日間中36日間にもあった。保護者からは「命が危ない」「子どもたちを守ってほしい」「死亡事故が起きないとエアコンは設置されないのか」といった、切実な声が多数寄せられている（*W B G T【湿球黒球温度 Wet Bulb Globe Temperature】：熱中症を予防することを目的として提案された指標であり、「28」を超えると熱中症患者が著しく増加すると言われている）。

・また、現在の授業で使用頻度の高まっている保育実習室・被服実習室・調理室・物理室・化学室や食堂などの特別教室等にもエアコン設置を強く要望する。

② 校舎内トイレの洋式化

・女子トイレは、和式32か所に対して洋式18か所（洋式率36%）と低く、396名の女子生徒に対し1か所あたり約22名の利用となっており、休み時間内に利用できない生徒が多数生じている。ウォシュレット設置は18か所中10か所にとどまっている。

・男子トイレも、和式15か所に対し洋式11か所（洋式率42%）であり、307名の男子生徒に対し1か所あたり約28名、ウォシュレットはわずか3か所であり、十分な環境とは言えない。

・和式を避けて洋式が空くのを待つ生徒もあり、健康被害の懸念もある。

・和式トイレは不衛生で、特に女子生徒のスカートが床に触れるなど衛生・精神両面での負担が大きくなっている。

・学校公開時には中学生・保護者が施設を見学するが、老朽化した和式トイレが学校全体の印象を損なうことも懸念される。

・進められていた洋式への改修工事は令和4年4月を最後に停止している。これは現在の本校3年生が入学する1年前であり、彼らにとっては「入学以来トイレ環境がまったく改善されていない状況」となっているのが実情である。

③ 各教室のWi-Fi環境の刷新

・授業中、生徒全員が同時に接続できず、誰かがつながると他の人が切れるといった事象が頻発している。そのため教員が接続対応に追われ、授業時間が15分ほど失われることもある。

・それを受けた令和7年9月16日に全校生徒に対し、Wi-Fi接続テストを行った。そのなかで最も深刻な結果は、動画接続テストにおいて「動画視聴はできたか」という問い合わせに対し、「はい」が132人（21.3%）に対し、「少し時間がかかった」が204人（32.9%）、「できなかった」が285人（45.9%）であった。また、「調べ学習はできたか」という問い合わせに対しては、「はい」が218人（35.2%）、「少し時間がかかった」が170人（27.4%）、「できなかった」が232人（37.4%）であった。

・来年度入学生からはBYAD（指定端末持参）を導入予定であるが、校内ネットワーク環境が整わなければ、購入したPCが効率的に使用できない事態が予想され、新入生やその保護者から理解を得ることは難しい状況である。

・情報処理教育を重視する本校において、群馬県が進めるDX化やデジタルクリエイティブ人材育成の流れにそぐわない状況となっている。

・また、現在の授業で使用頻度の高まっている図書館、音楽室、体育館、第1学習室、第2学習室、第1会議室、第3会議室、至誠館（合宿施設）等にもWi-Fiの設置を強く要望する。

＜結び＞

私たちは、私立高等学校との間に一定の設備差があることは理解している。しかしながら、同じ公教育を担う公立高等学校等との間に、これほど大きな格差が生じている現状は、生徒・保護者にとって到底納得できるものではない。

勉学や部活動に真摯に取り組む生徒たちが、他の公立高等学校等と同等な支援を受けられていない現状は、本市の未来を担う人材育成に大きな影を落とす。

今回の要望は、単なる設備の老朽化や不便さの問題にとどまらず、
「子どもたちの命と健康」
「学ぶ意欲と誇り」
「桐生市がどのように未来の桐生市を支えていく人材を育てていくのか」

という、根幹的な課題に直結している。
生徒たちが「この学校で学べてよかった」と将来胸を張って言えるよう、どうか子どもたちの切実な声に真摯に耳を傾けられたい。

	<p>本校では今年度から、「自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成」を最上位目標とした教育ビジョン「Students'Power of Agency and Resilience at Kirisho for our well-being! (桐商 SPARK!)」を掲げ、生徒と教職員が一体となって学校の魅力化に取り組んでいる。保護者としてもこの構想に賛同し、桐生市立商業高等学校のさらなる発展を願い、支援を行っているところである。</p> <p>桐生市が運営する教育機関は幼稚園・小学校・中学校・高等学校とあるが、桐生市唯一の市立高等学校である本校は、市内の少子化の影響もあり、他の市町村からの志願者確保が定員維持の鍵を握っている。設備の遅れは学校存続にも関わる問題である。市の財政事情が厳しいことは重々承知しているが、国の補助金や交付金の活用など、あらゆる手段を講じられ、少なくとも設置計画の早期公表を実現されるよう、心よりお願ひ申し上げる。</p> <p style="text-align: right;">敬具</p>
付託委員会	教育民生委員会
審査結果	